View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

幼児期・児童期における笑われる不愉快さの理解

佐久間　路子・伊藤　理絵*

報告

研究実績の概要

客員研究員である伊藤が中心となって、昨年度までのデータをまとめるとともに、新たに幼児期の実験、児童期の実験授業を行った。成果については、以下の通りである。７月の日本笑い学会第24回総会・研究発表会にて、口頭発表「幼児期における笑いの不愉快さの理解と感情理解および心の理論に関する縦断的調査」を行い、年少時と年長時における不愉快な笑いの理解課題、感情理解課題、心の理論課題、言語課題の結果を比較し、笑われることで生じる感情が悲しみに収斂される可能性について論じた。８月は「笑い学の可能性：笑う・笑わせる・笑われる」と題し、笑いを研究することで開かれる可能性について検討すべく、日本笑い学会学術交流支部第３回研究会の企画・発表を行った。口頭発表「幼児期における笑われる悲しみの理解」では、幼児が他者から笑われることに対してどのような感情を抱くのか、また、笑われたことで生じる悲しみをどのように理解しているのかについて考察した。

11月の日本乳幼児教育学会第27回大会では、口頭発表「接続期における笑われる不愉快さの理解―「考え、議論する道徳」からの検討―」にて、幼児期の終わり頃の子どもを対象に、相手の笑いの意図とその笑いの不適切さに関する理解について分析し、10の姿の一つである「道徳性・規範意識の芽生え」の観点から、幼児教育と小学校教育の学びをつなぐ道徳教育について考察した。12月は、博士論文と昨年度の成果を含めてまとめ直し、『笑いの攻撃性と社会的笑いの発達』（溪水社）として発刊した。３月には、昨年度からの研究をまとめた「道徳性・規範意識の芽生えから道徳教育へ－「笑い」を用いた教材の提案－」が名古屋女子大学紀要に掲載された。また、日本発達心理学会第29回大会でラウンドテーブルを企画し、話題提供として「幼児期・児童期における笑われる不愉快さの理解」について口頭発表を行い、幼児期から児童期における嘲笑の理解の発達の連続性について論じた。

＊客員研究員
名古屋女子大学短期大学部保育学科講師